

令和5年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立加納小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和5年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

3 調査実施日

令和5年4月18日(火)

4 調査の内容

(国語、算数、理科) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校調査は、国語、算数とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。 	
	【小学校 国語・算数 各45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

小学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



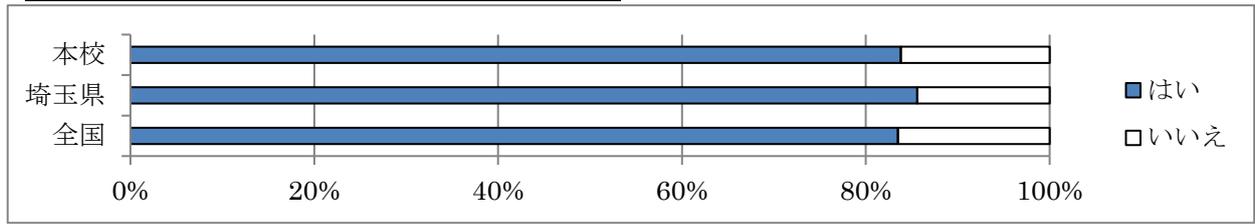
国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	70.0	72.8	71.2
情報の扱い方に関する事項	2	57.5	64.4	63.4
話すこと・聞くこと	3	68.3	73.9	72.6
書くこと	1	13.3	26.1	26.7
読むこと	3	61.7	72.5	71.2

算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	6	63.1	67.1	67.3
図形	4	47.1	47.8	48.2
変化と関係	4	68.8	71.0	70.9
データの活用	3	61.1	66.3	65.5

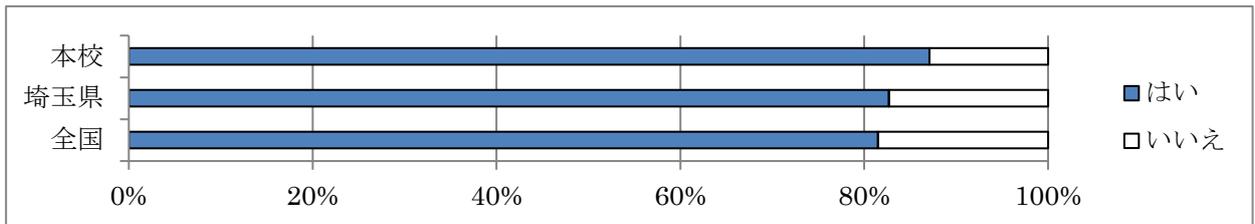
<児童への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

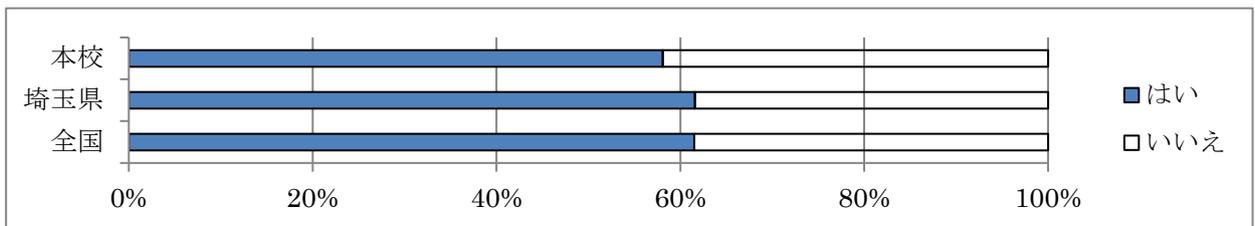
自分には良いところがあると思いますか。



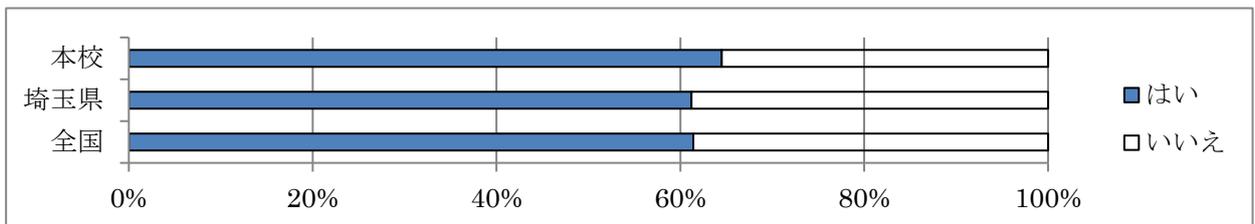
将来の夢や目標を持っていますか。



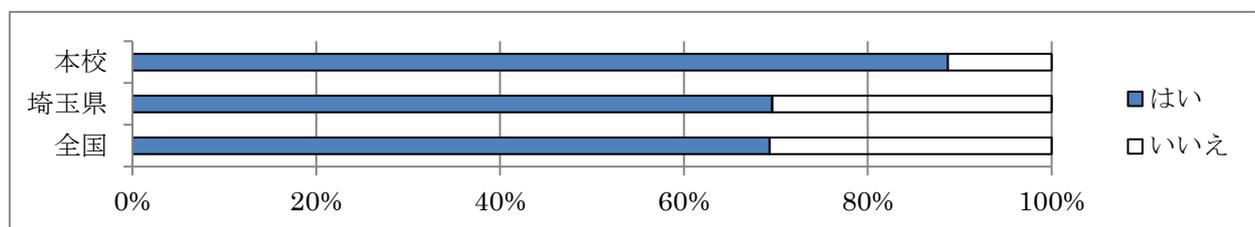
国語の勉強は好きですか。



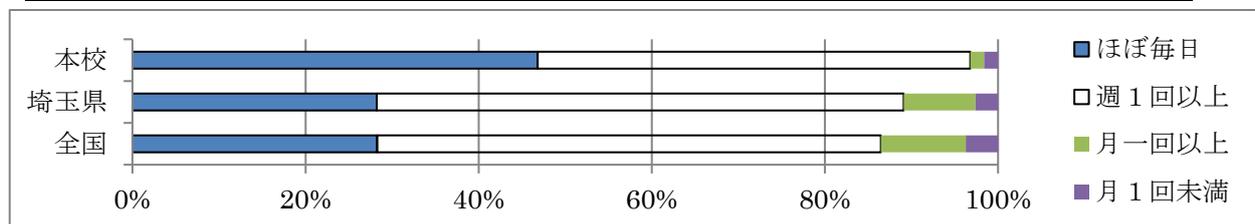
算数の勉強は好きですか。



英語の勉強は好きですか。



5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT 機器を、どの程度使用しましたか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【領域別】

- ◆【書くこと】情報と情報との関係を捉えたり、グラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりして条件に合うように文章を書くことに課題が見られました。

【課題の見られた問題】

問題 米作りの問題点とその解決方法について、あとの条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- グラフとカード④のそれぞれから分かることを書くこと。
- 解決方法については、カード⑤をもとにして書くこと。
- 60字以上、100字以内にまとめて書くこと。

【グラフ】

農家は雑草の量を少なく（バケツ1個分）維持できているが、学校は、農家の2倍、3倍、4倍と増えてしまっていることわかるグラフ。

【カード④】

農家の方の話

- ・雑草に栄養をとられると米の収穫が減る。
- ・雑草が多いと稲が病気になることがある。
- ・農家は様々な方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

- ・雑草取りの回数を増やす。
- ・雑草取りの人数を増やす。

正答（例）

グラフからわかるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。（100字）

【要因】

- ・複数の条件に合わせて書くことができなかったこと。
- ・グラフからわかることを解決方法と関連させて簡潔に述べるのが難しかったこと。
- ・問題の意味を理解できず、無回答となってしまうこと。
- ・60字以上、100字以内で書くことができなかったこと。

【改善策】

- ・問題文で聞かれていることや踏まえなければならない条件等の情報を明確に捉えるために、大切な部分には、線や囲み線をつけるなどの指導を行っていきます。
- ・問い返しを教員から児童へ、児童相互にできるよう働きかけ、伝えたい内容を簡潔に述べられるような学習を積み重ねていきます。
- ・読書習慣を身に付けさせ、文章にふれる機会を増やすようにしていきます。
- ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、児童が相互に作成した文章を読み合い、学び合う機会をつくることで、書くことの技能を身に付けさせていきます。

<算 数>

【領域別】

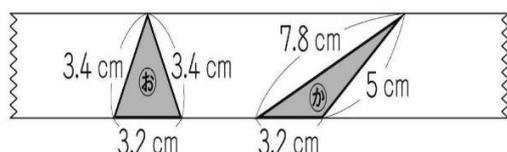
- ◆【図形】高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて考えることに課題が見られました。

※下の問題については、「既習事項：三角形の面積の公式」を理解しているにも関わらず、その知識を活用できていない実態が見られたことを課題として捉え、問題を掲載しました。

【問題】

問題

えいたさんたちは、テープを直線で切って下のような㊸と㊹の2つの三角形を作ります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んでその番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

正答 番号 3

(わけ) 三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができます。㊸と㊹の底辺は、どちらも3.2cmなので等しいです。㊸と㊹の高さは、テープのはばがどこも同じ長さなので等しいです。だから、㊸と㊹の面積は等しいです。

【要因】

- 二つの三角形の面積の大きさを判断するために、平行な二つの直線の幅はどこでも等しいことに着目し、示された三角形の底辺と高さを適切に捉えることができなかったこと。
- 図形の面積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、自分の言葉で表現することができなかったこと。
- 理由を明確にして説明する文章を書くことができなかったこと。

【改善策】

- 「高さ」の捉えが甘かったことが1つの要因であるため、本問題のような三角形の場合の「高さ」に関する学びを取り入れるようにしていきます。
- 公式として一般化して学ぶ場合、なぜそうなるのか、児童が自らの言葉で表現できるような学習過程（学び合い）に、引き続き取り組んでいきます。
- 理由や根拠が不足する児童の発言については、必ず教員から児童へ、児童相互に問い返すよう働きかけることで、自らの考えに理由を加えて述べられるようにしていきます。

<質問紙調査から>

【素晴らしい点】

① 人の役に立つ人間になりたいと思いませんか。

(本校肯定的回答：100%)

※全員が肯定的回答をしました

② 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いませんか。

(本校肯定的回答：87.1%)

※全国を10.3ポイント上回る結果

【要因】

どの設問についても、前向きでよりよい姿を実現したいという素直な心が見られます。ご家庭において、日々、あたたかく、そして励ましながら児童を育てていただいていることが大きな要因であると考えます。

また、学校においても、様々な取組や活動の中で、児童一人一人が目標をもち、粘り強く継続し、自分を高めていく姿を評価し、賞賛してきたことが児童のこのような姿に結び付いたと考えております。

【今後の対応】

このような姿勢は、学力の向上にもつながっていくと考えます。児童のよさを教職員が認め、賞賛する「自己有用感」をもたせる取組を今後も続けていきます。

日々の生活の中で、この前向きな気持ちのもち方を学力の向上にもつなげられるよう努めてまいります。

【改善していきたい点】

③ 学校の授業以外に、普段（月～金曜日）1日あたりどのくらいの時間（塾などの時間も含む）勉強しますか。

(30分未満～全くしない児童：27.5%)

※全国を11.5ポイント上回る結果

【要因】

宿題や塾等の時間も含めて4人に1人以上が1日30分未満の学習時間というデータは加納小の平均学力が全国や県の平均を下回ってしまう要因の1つであると考えます。

宿題や課題を積み残し、学校の休み時間等にやらなければならないというような状況は、勉強を嫌いにさせてしまう要因にもなります。

高学年になり宿題等に関する保護者と児童の関りが薄くなっていることも、家庭での学習時間の減少と関係があると考えられます。

【今後の対応】

学校としては、教科等の指導を通して、学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力等を育成する実践を継続していきます。児童の学習意欲の向上を家庭学習につなげていきます。

ご家庭では、高学年であっても連絡帳をご確認いただき、宿題等の確認をしていただくとともに、児童のがんばりを評価する声かけをいただきたいと考えています。

学習習慣の定着が今後の学力向上に大きく影響を与えることを考え、どんなことに取り組むとよいかわかる「家庭学習の手引き」をより使いやすく改訂してまいります。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和5年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

3 調査実施日

令和5年5月10日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
言葉の特徴や使い方	17	65.6	68.0	14	67.9	69.3	14	66.0	71.4
情報の扱い方、我が国の言語文化	6	61.2	64.2	7	54.9	61.3	3	36.6	47.7
話すこと・聞くこと・書くこと	5	43.9	51.3	4	48.3	60.0	5	45.6	51.3
読むこと	3	52.2	57.5	6	52.2	51.0	9	44.3	53.8
※学力の伸びた児童の割合						↑↑↑↑↑			↑↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
数と計算	13	72.6	71.7	14	61.0	63.4	13	56.6	60.2
図形	6	52.9	56.5	8	57.5	61.3	8	58.0	60.3
4年測定 5、6年変化と関係	6	55.1	56.5	6	59.3	64.2	7	55.5	53.9
データの活用	6	72.8	61.7	4	56.1	63.4	5	42.3	44.3
※学力の伸びた児童の割合						↑↑↑			↑↑

<児童への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段: 県の達成率、下段: 本校の達成率、 は80%以上 (％)

内容	項目	第4学年	第5学年	第6学年	
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る				
	① 登校時刻		92.0	93.1	93.9
			95.7	97.8	98.4
	② 授業の開始時刻		90.6	91.9	94.4
			93.5	97.8	96.7
	2 身の回りの整理整頓をする				
	③ 靴そろえ		82.1	81.8	85.8
			78.3	77.8	83.6
④ 整理整頓		79.3	76.4	77.1	
		84.8	75.6	77.0	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする				
	⑤ あいさつ		80.3	77.4	77.7
			82.6	86.7	85.2
	⑥ 返事		90.0	88.1	87.8
			95.7	93.3	93.4
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける				
	⑦ 正しい言葉づかい		85.7	86.6	88.8
			89.1	91.1	93.4
⑧ やさしい言葉づかい		86.4	84.7	85.1	
		84.8	88.9	91.8	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る				
	⑨ 学習準備		84.6	85.3	86.6
			91.3	93.3	88.5
	⑩ 話を聞き発表する		80.9	77.3	74.4
			80.4	86.7	68.9
	6 生活のきまりを守る				
	⑪ 集団の場での態度		86.7	84.7	85.7
			87.0	84.4	88.5
⑫ 掃除・美化活動		91.8	89.2	87.9	
		93.5	91.1	83.6	

本校の学力向上の取組

※各校が調査結果を分析し、成果を上げたと考えられる取組（☆）と、課題を解決するための取組（■）について、「授業における取組」、「授業以外の取組」等の方策を掲載する。

授業における取組

☆1 個別指導の徹底

- (1) チームティーチングや少人数指導などきめ細やかな指導をします。
- (2) 単元開始前に児童の理解度を確認します。
- (3) ワークシートを用いた単元ごとの習熟度の確認をします。

☆2 言語活動の充実

- (1) 全ての教科において、ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態で意見交流する時間を確保します。
- (2) 自らの考えを理由を明確にして述べたり、書いたりすることができるよう教員から児童、児童相互の問い返しを行い、考えを深めます。

■3 学習に対する態度の育成

- (1) 電子黒板などICT機器を活用した授業など、疑問や探究心を湧き立たせるような教材や指導を行います。
- (2) 教員による評価だけでなく、児童自身による学習の振り返りを日常化します。

授業以外の取組

☆1 家庭学習の習慣化

- (1) 10分×学年は家庭学習の時間を取りましょう。
- (2) 宿題内容の精選、デジタルドリルの活用、確実な点検を行います。
- (3) 家庭学習の成果を授業で生かしたり、発表したりする場面を設定して意欲を高めます。

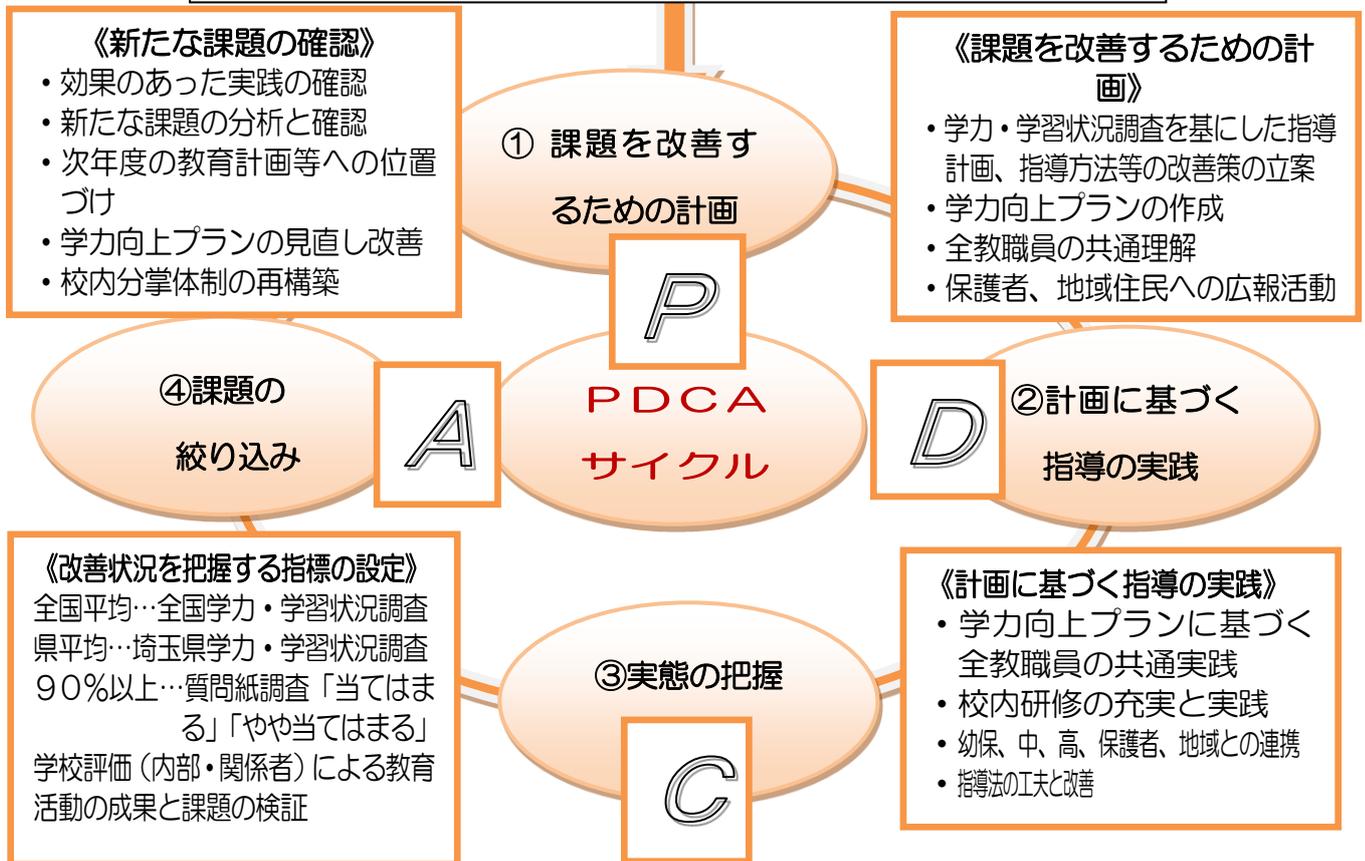
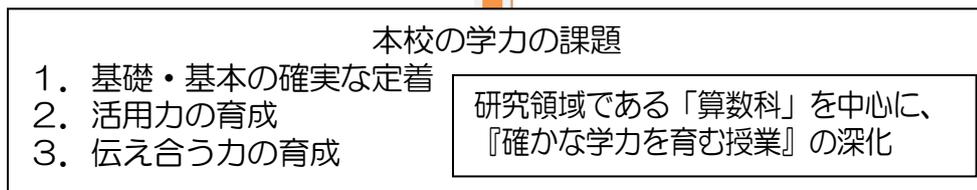
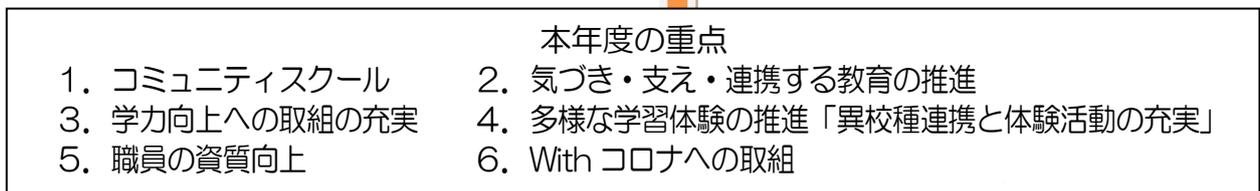
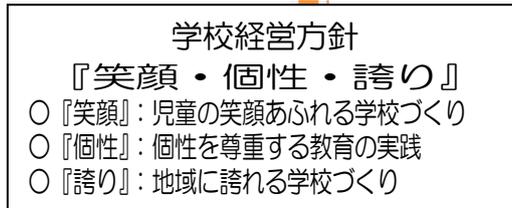
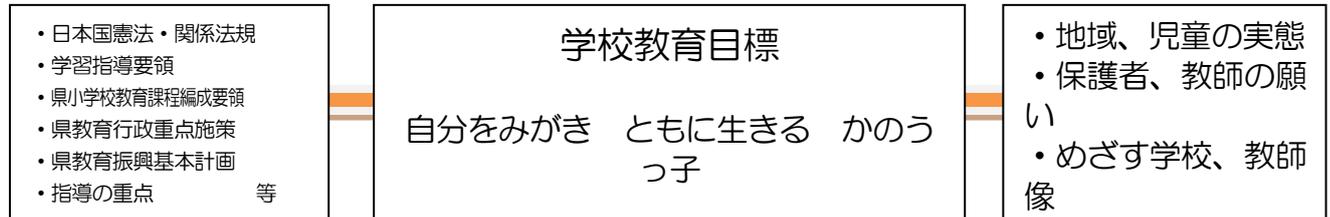
■2 朝自習の見直し

- (1) 算数の課題を踏まえて、算数のプリントを毎月曜日に実施します。
- (2) 国語の課題を踏まえて、水曜日に読書の時間を設定し、本に触れる時間を増やします。
- (3) 個に応じた確実な支援をするために、朝自習でもデジタルドリルを必要に応じて活用します。

本校の学力向上プラン

令和5年度 学力向上全体計画

桶川市立加納小学校



1 学力向上プラン



かのうっ子の「確かな学力」の育成

1 時間毎の授業における具体的な指導法の改善

基礎的・基本的な知識・技能の習得（反復練習・具体的指導）

見通しと振り返り

体験的・問題解決的な学習の推

言語活動の充

＝本校の組織的な研修による確かな学力の育成＝

◎学校課題研究を通じた学力の向上（算数科）

◎ICT 機器の活用を通じた学力向上

（デジタル教科書、chromebook、モニター、拡大提示装置等）

◎『考え、話し合い、学び合う学習』の推進を通じた学力の向上

課題を解決するために

- 1 わかる授業を展開するために、見通しと振り返りの充実を図り、各教科の特性に応じた授業方法について確認し、実践する。
- 2 他教科や日常の取組との関連を図り、言語活動の充実をより一層高めていく。
- 3 知識・技能の確実な習得のために、個の学びに応じた指導方法・指導形態を工夫する。
- 4 知識・技能の確実な習得のために、保護者と連携し、家庭学習の習慣化、スキルアップと学び方の習得を図る。
- 5 地域の教育力を積極的に取り入れ、体験的・問題解決的な学習を推進し、学び意欲を高める指導の工夫・改善を図る。

具体的方策

I 指導内容・指導方法の工夫

○国語力の土台の育成

- ・国語タイム（児童の実態に応じた視写等の継続）
- ・読書習慣の確立（環境整備・読書カードの活用等）

○読む力の育成

- ・学校課題研究の蓄積を生かした授業実践

○書く力・言語事項の指導

- ・国語辞典の活用
- ・キーワードを取り入れて書く活動

国語

○基礎・基本の定着

- ・既習事項を生かし、解決すること
- ・家庭学習の手引きの活用と習慣化（家庭との連携）

○個に応じた指導の工夫と改善

- ・少人数指導やTT、必要に応じた補習の実施

○問題を読み取る力と活用する力の育成

- ・問題文の分析、共通のノート指導
- ・表や線分図の活用とICT活用によるわかる授業

算数

○考え、話し合い、学び合う学習の実践

- ・学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力等を育成（思考ツールの活用・指導と評価の一体化）

○言語活動を意図的・継続的に取り入れた授業実践

- ・「伝え合う」「書く」活動を積極的に取り入れ、自分の考え等を表現させ、見届け、認める。（理由・根拠を明確に）

全教科領域を通して

学習環境の整備

○児童にとって

- ・授業の積み重ね、児童の頑張りが見える学習掲示
- ・学習におけるUD（簡潔・視覚にも訴える指示）
- ・教室の整理整頓、学習規律の徹底（生活目標との関連）
- ・学校図書館・学習端末の積極的な活用。

○教職員にとって

- ・ICT活用による教材の共有化、事務処理時間の短縮による子供と向き合う時間の捻出を図る。

学校生活の充実

○朝の活動の充実

- ・朝マラソン、元気タイム、算数・国語タイム等の計画的な実践

○児童会活動の充実

- ・児童の主体的な取組 ・中学生との合同あいさつ運動

○規律ある態度の充実

- ・礼に始まり礼に終わる ・もくもく清掃活動の習慣化

○教育相談体制の充実（教育相談日の活用）

Ⅱ 教育課程への対応の工夫

- 言語活動を充実させる年間指導計画の作成
 - ・実践を通して、加除・修正し、実態に応じた学力を向上させる教育課程の編成
- 学校課題研究（算数科）の取組
 - ・児童の言語活動のより一層の充実 ・ICT 機器、思考ツールの活用 ・指導と評価の一体化
- 各教科間の関連を考慮した単元配当の工夫
 - ・調べ方やまとめ方、表現する力を一層効果的に育むため、単元配当を工夫する。
- 地域の教育力・家庭の協力を積極的に取り込む教育課程の編成

Ⅲ 学習評価の工夫

- 年間指導計画に基づいた評価規準の見直しと改善、全職員による共通理解。
- 諸調査結果の分析・考察による児童の実態把握を、指導と評価の改善に生かす。
 - ・学力向上担当による第1次分析・考察 → 職員による第2次分析・考察 → 共有
- 評価計画の作成（形成的評価・個人内評価を行い、個に応じた指導を充実させる。）
- 思考ツールの活用による学びの可視化を評価に生かす。（本校の研修実践を通して）

Ⅳ 保護者・地域との連携を通して

○全国・埼玉県学力・学習状況調査に関する情報や検証結果等を公表し、学校の学力向上への取組を知らせ、保護者・地域への啓発と協力の要請を行う。

○学級懇談会、個人懇談会等の活用

保護者

- ・個々の学力についての積極的情報交換
- 家庭学習の充実（家庭学習の手引きの活用）
- 規則正しい生活（早寝・早起き・朝ご飯、決まった時間の学習）
- 学習ボランティアの依頼（家庭、生活、総合等）
- 様々な教育場面での学校公開

○学校応援団による効果的な学習支援

地域

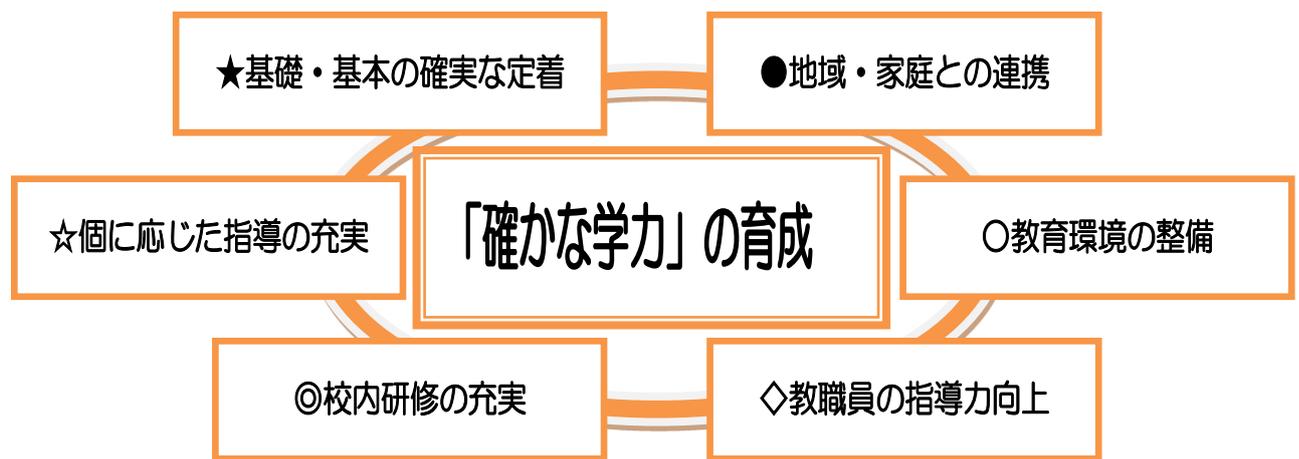
- ・図書ボランティア（本の読み聞かせ）の活用
- ・学習ボランティアの活用 ・環境整備活動への協力
- ゲストティーチャーの活用 ○児童を見守る体制
- 学校行事等への協力 ○小中連携の推進
- 桶川高校生の学習支援・活動支援ボランティア

中長期的な学力向上を見据えて

★PDCAサイクルの活用

・学力向上に関する諸取組に関して成果と課題を検討し、その後の学習指導の改善に生かすサイクルを全職員で確立する。

★教師の授業力の向上



(1) 基礎・基本の確実な定着 (★)

- ア 各教科における言語活動の推進
- イ 業前活動の充実 (算数タイム・国語タイム・元気タイム・読書タイム、読み聞かせ)
- ウ 各教科におけるスキルアップタイム (既習事項の定着) 実施

(2) 個に応じた指導の充実 (☆)

- ア 少人数指導・T T 指導の効果的実践 (算数)
- イ 教育指導補助員の効果的配置・実践 (算数・書写・図画工作・音楽・体育科等)

(3) 校内研修の充実 (◎)

- ア 指導方法の工夫・改善
- イ 算数科の校内授業研究会を計画的に実施

(4) 地域・家庭との連携 (●)

- ア 家庭学習 (手引き・音読・読書) の啓発と協力依頼による家庭学習の習慣化
- イ 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果・考察の公表と、授業公開・懇談会等による連携
- ウ 地域の人材を活用した体験的学習の実施

(5) 教育環境の整備 (○)

- ア 各学級の学習コーナー・各学年の学習コーナー
- イ 教材備品の整備・補充・廃棄による効果的な活用を促す教材室

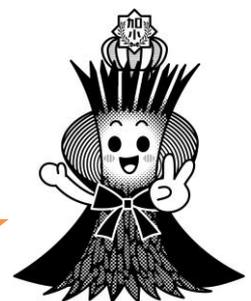
(6) 教職員の指導力向上 (◇)

- ア 年2回の授業公開週間 (教員同士が見合い高める機会、管理職による授業参観)
- イ 学校課題研修授業研究会・示範授業の実施
- ウ 実技伝達研修会の実施

2 確かな学力を身につける授業「4つのキーワード」

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を土台に
- (2) 見通しと振り返りのある授業
- (3) 体験的・問題解決的な学習の推進
- (4) 言語活動の充実

教師の意識の中に
『根拠』や『理由』!



3 各教科・領域の手立て（★基礎基本の確実な定着☆個に応じた指導の充実◎校内研修の充実●地域・家庭との連携○教育環境の整備◇教職員の指導力向上）

	【課題】 ・ 手立て等
国 語	<p>【書くこと・読むこと（説明的文章）・要旨・段落の相互関係・文法・語彙】</p> <p>●読書と音読の習慣化。（読書カード、音読カードの活用）</p> <p>◇自分の考えを文章化する活動（キーワード）・発表する機会を積極的に設ける。</p> <p>★書く機会を多くもたせる。（日記、段落構成の明確な作文、本の紹介：家読全員参加、スピーチ原稿、視写の取組：天声こども語の書き写し）</p>
社 会	<p>【基礎・基本となる知識を身につける・資料や情報を的確にとらえ、表現・考察する】</p> <p>★基礎・基本となる知識を増やすスキルアップタイムを設ける。（既習・地図記号・都道府県・世界地図・歴史人物等）</p> <p>★資料の見方の確実な定着。（視点を与え、見方を教える）</p> <p>★問題解決学習などの主体的な学びの展開をする。</p> <p>◇体験的な学習や、資料から読み取り考察する学習を充実させ、発表する場を設ける。</p>
算 数	<p>【数学的見方、考え方を働かせる展開・数学的活動の充実】</p> <p>◎既習事項を生かし、見通しを持たせ、解決できる授業展開。</p> <p>★既習事項や四則計算の定着を図るため、ドリルやプリントによる復習を実施。問題提示の工夫。</p> <p>◎学び合いの場を取り入れ、思考の深まりのある授業実践。</p>
理 科	<p>【予想と関連づけながら考察・科学的な言葉や概念を活用して結果をまとめる・日常生活との結びつき】</p> <p>★観察、実験等の体験的学習をもとにした言語活動を充実させる。（結果と関連させ、根拠を明らかにして表現する）</p> <p>◇学習内容が日常生活のどのような場面に生かされているのかを取り上げ一般化する。</p> <p>◎条件や実験結果を比較検討しながら、学び合いを通してまとめを作り上げていく、全員で共有する授業実践。</p>
体 育	<p>【確実な技能の習得・運動の生活化】</p> <p>◇運動の系統性を共通理解し、当該学年で身につけるべき技能を習得させる授業実践。</p> <p>★加納っ子体操、元気タイムの継続実施。</p> <p>◇技能指導を十分に行い、運動の行い方を理解させる。</p> <p>◇言語活動を充実させ、児童の思考力向上を図る。</p>
生 活	<p>☆児童の思いや願いを生かし、多様な学習活動を位置付け、気づきの質を高める授業展開。</p> <p>◎簡単な思考ツールを用いた学び合いを導入する。</p>
音 楽	<p>★用語・楽譜の読み、リズム等の基礎的な知識をクイズ形式で出題し、定着を図る。</p> <p>☆譜読や鍵盤ハーモニカ、リコーダー練習の際には、個別指導の時間を確保する。</p> <p>★友達の演奏を聴き合ったり、言葉によるコミュニケーションを図ったりする。</p> <p>◇歌唱教材に取り組む際には、歌詞を声に出して読み、歌詞の表す情景や気持ちに気づかせる。</p> <p>○音楽用語やリコーダーの運指表等を掲示し、自ら問題解決できるような音楽室掲示を行う。</p>
図画工作	<p>★クロッキータイム（短時間での写し描き）の実施。（技能の確実な定着）</p> <p>☆自分の思いを元にイメージや発想を広げられるようなワークシートの工夫をする。</p> <p>○本時のめあてをわかるように示す。</p> <p>☆発想・構想を豊かに引き出す声かけをする。</p> <p>◇用具の使い方を丁寧に指導する。校内実技講習による指導力向上。</p>
家 庭	<p>★衣・食・住・環境について、2学年の系統性を図り、中学校の学習へつなげる。</p>

	<p>●家庭での実践を通し、自分の役割が自覚できるようにする。</p> <p>★実習を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な技能の定着を図る。</p> <p>☆調理・製作の過程を掲示し、順序を明確にする。</p>
外国語	<p>○ICTの活用により、様々な感覚を活用して、外国語を身近に感じられるようにする。</p> <p>◇動作化やICTの活用により、日本と外国との生活、習慣、行事などの共通点や相違点に気づくようにする。</p> <p>★アルファベットでの英語表記を積極的に導入・指導し、音声に加え文字による外国語の感覚を養う。</p> <p>◎小中連携を積極的に行い、小学校段階で身につけるべき内容を教職員で共通理解・共通指導する。</p>
総合	<p>◇調べる活動・まとめる活動・伝える活動を充実させる。【探求活動の一層の充実】</p> <p>◇相手意識をもち、活動したことを生活に生かしていく。【課題意識の明確化と実践意欲の高揚】</p> <p>○ICTの活用と情報モラルの育成。</p>
道徳	<p>◇物事を多面的・多角的に考え、自分の生き方について考えを深める。</p> <p>☆思考ツールの活用により考えを可視化し、指導と評価を充実させる。</p> <p>◎相対した価値を大切にしたい話し合い、考えあう道徳授業の実践。</p>
学級活動	<p>◇学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動。</p> <p>◇集団の中で自己の生活などで課題を見出し、意思決定する力を育成する。</p> <p>★学級会ノートを活用し、自分の意見を事前に考え、話し合いに臨む。</p> <p>◎友達の意見を自分の考えと比べながら聞き、よりよい意見を考え出す力をつけるとともに、折り合いをつける力を育成する。</p>

*あわせてICTと学校図書館の効果的活用を図り、児童の確かな学力を育成していく。

ICTの活用	・教材の共有化	<p>○教材・プリント等のデータを共有。</p> <p>→教材研究や子供と向き合う時間の有効活用。</p> <p>→効果的な指導方法の継承。</p>
	・学習評価の電子化	<p>○通知表の完全電子化。</p> <p>→教材研究や子供と向き合う時間の有効活用。</p> <p>→指導と評価の一体化。</p>
	・ICT支援員の活用	<p>○授業サポート等により「できること」を増やす。</p> <p>→全教職員ができることを増やし学習効果を高める。</p>
学校図書館の活用	・環境整備と家庭への啓発	<p>○調べ学習で活用できる蔵書を増やす。</p> <p>→辞書や本を手にする機会を増やすよう啓発。 (ネットによる調べ学習の利便性と同時に難しさ・著作権に関しても子供たちへ指導する。)</p> <p>○司書教諭を中心とした図書館環境の整備</p> <p>→貸出し冊数の増加による読書習慣の定着。</p>
	・「本」で調べる学習の充実	<p>○学習内容と関連した蔵書があるゾーンを明示。</p> <p>→本を探す時間の短縮による学習効率の向上。</p>
	・並行読書ゾーンの設置	<p>○国語教材の並行読書の働きかけ。</p> <p>→発展学習の働きかけと読書習慣の定着。</p>

★年間15冊の貸し出しを目指し、日々の読書習慣確立に向けた働きかけを充実させる。

保護者・地域の皆様へ

☆家庭学習の習慣を身に付けさせたいと考えております。まずは、学習する環境（学習中はテレビを消す、身の回りの整理整頓、良い姿勢で学習に取り組む等）を整えられるようにしてください。学校でも学習の見届けを行います。ご家庭でも学習の様子を見守ったり、ノート等の点検をしていただけたらすると、さらに効果が高まります。年度初めに配付しました「家庭学習の手引き」を必要に応じてご活用ください。

☆読書の好きな児童を育成したいと考えております。ご家庭でも児童への声かけをお願いします。「うちどく」コンクールの取組などを機に、親子で本を一緒に手に取る機会がもてるとよいです。

☆加納中学校と連携し、9年間を見通した生活指導を心がけております。「かのうっ子のやくそく」の内容を、ご家庭においてもお子さんと確認する機会を設けてください。